

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

だましたヤコブ



ぶん
文: Edward Hughes

え
絵: M. Maillot; Lazarus; Alastair P.

かいさくしゃ
改作者: M. Kerr; Sarah S.

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki
監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2021 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし また
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、
きよか
許可されています。





かみ

神さまは、もうみなさんのおうちに、かわい

あか

い赤ちゃんをとどけてくださいましたか？

それって、ほんとうにうれしいですね。

きっとイサクとリベカは、みんなの

にほい

二倍もうれしかったにちがいあり

かみ

ません。どうしてって、神さま

ふたり ふたご

は、二人に双子をくださったの
ですからね。



ふたご あか

双子の赤ちゃんは、リベカの

なか

おなかの中で大あばれ。

いの

リベカがお祈りしていると、

かみ

い

神さまが、こう言われました。

ふたり おとこ こ

「リベカ、二人の男の子は、

くに

二つの国をつくるだろう。

おとうと ほう

そして弟の方が、

あに

たいせつ

兄よりもっと大切にされ

るようになるだろう。」でも、

あに

ふつうは、たいてい兄のほうが、

たいせつ

大切にされたのですけれどね。さあ、

あか

う

ついに赤ちゃんたちが、生まれましたよ。



どうい^{ふたご}うわけか、その**双子**たちは、あまり**似**^にていませんでした。

兄^{あに}のエサウは、とても**毛深**^{けぶか}くて、**大**^{おお}きくなるにつれて、**狩**^{かり}がたい

そう**上手**^{じょうず}になりました。**弟**^{おとうと}ヤコブは、すべすべの**皮**^ひふで、

家^{いえ}の**仕事**^{しごと}を手伝^{てつだ}うのが、**大**^{だいす}好きでした。お父^{あに}さんイサクは、**兄**^{あに}エ

サウの方^{ほう}を**愛**^{あい}しました。また、お母^{かあ}さんは、ヤコブの方^{ほう}が、

す**好**^すきでした。



ある日のこと、エサウは、おなかがすいてたまりませんでした。「何か、^{なに}食べる^たものをくれないか？」エサウは、ヤコブに^い言いました。「それじゃ兄さん、私^{わたし}

^{ちょうなん}に長男のけんりをく
ださいよ。」ヤコブ

は、つよく^い言いまし
た。そのときエサウ

^{ちょうなん}は、長男にくださっ

^{かみ}た神さまのやくそくなど、^き気にも
しませんでした。「いいよ、
そうしよう。」エサウは、

ヤコブに^いそう^い言っ^いてし^いまった

のです。こうなると、二人のお父さん
^なが^{とき}亡くなった時には、ヤコブがかぞく
^{ちょう}の長となるのでしょね。

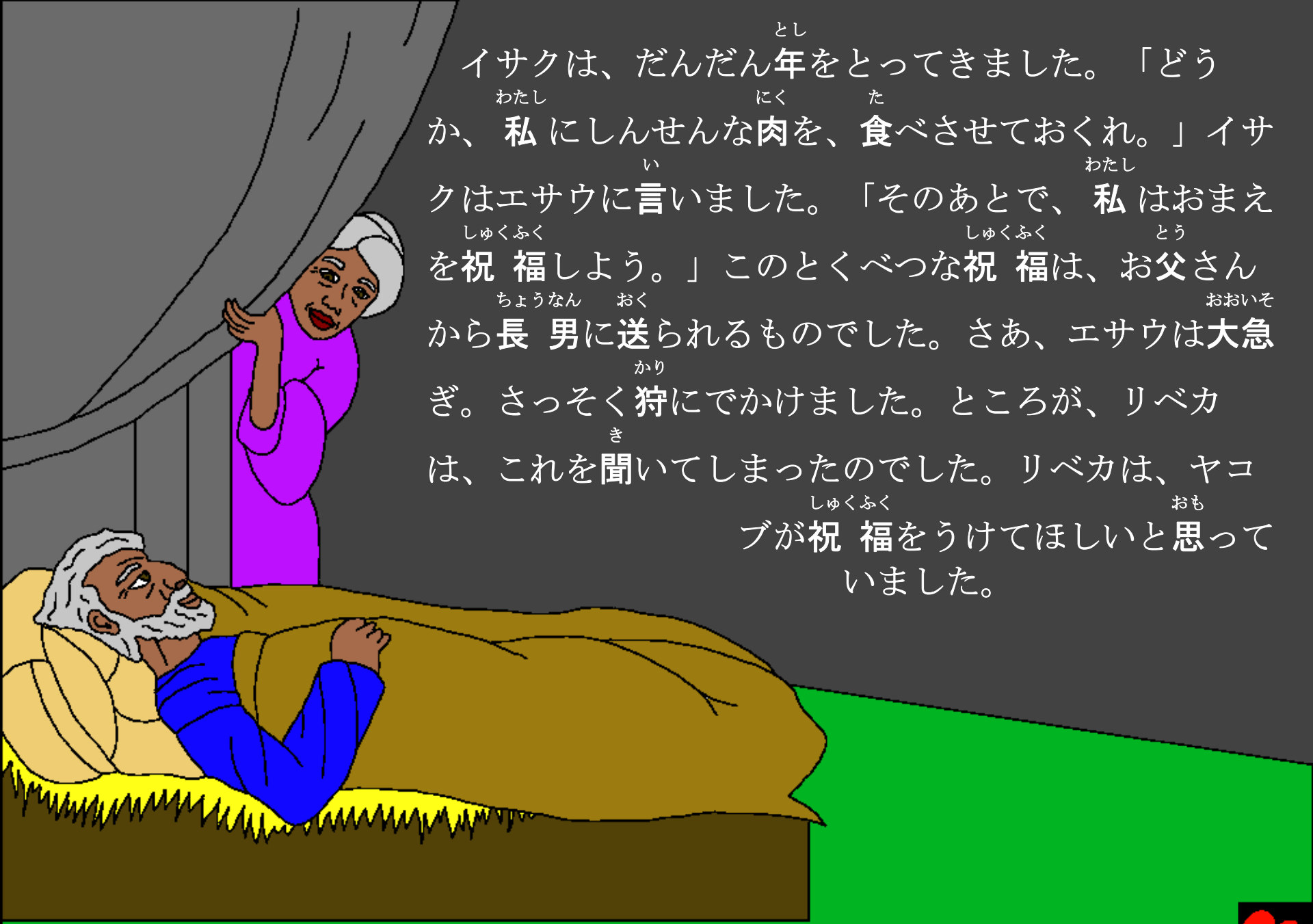


ある夜、^よ神^{かみ}さまはイサクに^{はな}話しかけられました。「イサク、^{わたし}私^{ちち}はあなたの父アブラハムの神である。私は、いつもあなたといっしょにしよう！そして、あなたのしそん^{しゆくふく}をずっと祝^{さんび}福^{むすこ}しつづけよう！」イサクは、いつも神さまのことを思^{けっこん}

^{ふたり}い、^{かみ}賛美^{おも}していました。でもね、イサクの息子エサウが結婚した二人のヘト人のおよめさんたちは、神さまのことなど、どうでも

^{おも}よいと思^{ひと}って
いる人たちでした。





とし
イサクは、だんだん年をとってきました。「どう
わたし にく た
か、私にしんせんな肉を、食べさせておくれ。」イサ
くはエサウに言いました。「そのあとで、私はおまえ
しゅくふく しゅくふく どう
を祝福しよう。」このとくべつな祝福は、お父さん
ちやうなん おく おおいそ
から長男に送られるものでした。さあ、エサウは大急
かり
ぎ。さっそく狩にでかけました。ところが、リベカ
き
は、これを聞いてしまったのでした。リベカは、ヤコ
しゅくふく おも
ブが祝福をうけてほしいと思って
いました。





ひと けいかく
リベカは、一つの計画を思いつ
いそ
きましたよ。リベカは急いでイ
だいす りょうり つく
サクの大好きな料理を作りました。
そのあいだにヤコブはエサ
ふく き けぶか
ウの服を着て、毛深いどうぶつ
かわ くび て
の皮をかれの首や手に、まきつ
め
けました。イサクは、目がよく
み
見えません。これで、たぶんリ
ベカとヤコブは、イサクをだま
せるでしょうね。



りょうり

ヤコブは、料理をイサクのところへはこびましたよ。「おまえは、ヤコブのようだね。」

イサクは、こうい言いってから、「あれっ、でもおまえの手は毛ぶかくて、まるでエサウのようだ。」と言いいまし

た。食しょくじ事じがおわまってから、イサクは、自じぶん分のまえ前までひひざまずいいていいる

むすこヤコブを祝しゅくふく福ふくしました。



で い
ヤコブがイサクのところを出て行ってからすぐ、エサウがやってきました。「お
とう た とう だいす しょくじ つく
父さん、さあ、食べてください。お父さんの大好きな食事を作りましたよ。」そ
こで、イサクは、ヤコブにだまされたことに

き
気がつきました。「ああ！なんていうこと

わたし しゅくふく
だ。私は、いちど祝福したものを、
かえることはできないんだよ。」イサ

な
クは、こう泣きさげびました。エサ

こころ
ウの心は、もうヤコブへのにくし
みでいっぱいです。ヤコブを殺して
しまおうときめました。



リベカは、エサウがヤコブを殺すつもりだ**って**聞きつけました。「ヤコブ、大急
ぎでここを**出**て、おじさんの**家**に**い**くんだよ。兄さんのエサウが、あなたのした

ことを**忘**れてしまうまで、**戻**ってはいけないよ。

」と、リベカはこのように**言**いました。イサクは、

ヤコブが**か**れのお**母**さんの**生**まれたところに

行って、お**嫁**さんをさがせばいいと**思**い、
さんせいしてくれました。さあ、ヤコブは、

急いでうちを**出**て**行**きましたよ。



よる
その夜の事です。ヤコブは、石をま
やす

くらしにして休むことにしました。

ヤコブは、たぶんさびしかったでし
ょうね。こわかったでしよ

うね。でもね、ヤコブは一人
じゃなかったのですよ。だっ

て、神さまが、ゆめの中
かみ なか

でヤ
コブとお話してくださ
はなし
ったのですから。



ヤコブのおじさんラバンは、ヤコブをよろこんでむか迎えてくれました
たよ。そこでヤコブは、いとこラケルにであ出会い、
すぐに好きになりました。ラケルと結婚けっこんさ
せてもらおうと思った、ヤコブは、かの女おも
のお父さんラバンのところで七年ものじよ
あいだ、いっしょうけんめいはた



らきました。ところが、
けっこんしき よる
結婚式の夜、ラバンはヤコブ
をだましたのでした。



「なんてひどい！ラケルじゃなくて、レアではありませんか。」ヤコブは、おこつて言いました。「あなたは、私をだましたのですね。」「いやいや、ここはね、一ばん上のむすめが、はじめに結婚せにやならんのだよ。」ラバンは、こう答えました。「まあね、あと七年はたらいてくれるのなら、ラケルともすぐに結婚できるよ。」そこで、ヤコブはそうすることにしました。たぶん、このときヤコブは思い出し

たでしょう。まえに、父イサクと兄エサウをだましたことをね。



いつのまにか、ヤコブは、もう11人もの息子
たちがいました。年としがすぎてゆくにつれ、ヤコ
ブは自分じぶんのかぞくをつれて、カナンへ帰かえりたく
てたまらなくなりました。ヤコブのお父とうさんや
お母かあさんがそこにいるのです。でも、ヤコブを
殺ころすとちかっていた兄あにエサウもね。



かえ
帰ってもだいじょうぶかな？ある日、神さまは、
い
ヤコブに言われました。「^{かえ}帰りなさい。」そこで、
じぶん
ヤコブはすぐに、**自分**のかぞくやヒツジやヤ
いえ
ギのむれをあつめ、なつかしい**家**にむかっ
しゅっぱつ
て**出 発**しました。



たび

それは、なんておおぜいの旅だったことでしょう。

よんひやくにん ひと

そこへ、なんと四百人もの人たちをつれたエ

あ

サウがヤコブに会いにやってきましたよ。

けれどもエサウは、ヤコブをやっつけ

き

るために来たのではありません。エサウ

はし

だ

は、ヤコブのところに走りしっかりと抱
きしめたのです。いまや、ヤコブとエサ

きょうだい

ウは、すっかりなかよしの兄弟でした。

こうして、とうとうヤコ

ブは、

ぶじに

いえ

家までもどれたのでした。



だましたヤコブ

かみ み せいしょ する
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

そうせいき しょう しょう
創世記 25 章 - 33 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っています。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをととても愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく つみ じゅうじかじょう な
の世に送って下さいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んで下さいます。そして、いつまでもイエスさ
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなって
下さいました。そして、よみがえって、いま生きて
わたし なか き つみ わたし いま
いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あたら
しい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいること
ができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たすけて
ください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

